

A I 戦略推進関係省庁会議（第 2 回） 議事要旨

1.日 時 令和 7 年 5 月 14 日（水） 11:30～12:00

2.場 所 中央合同庁舎 8 号館 1 階講堂

3.出席者

議 長	城内 実	内閣府特命担当大臣（科学技術政策）
顧 問	平 将明	デジタル大臣
議長代行	阪田 渉	内閣官房副長官補（内政担当）
	濱野幸一	内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長
議長代理	渡邊昇治	内閣府科学技術・イノベーション推進事務局統括官
構 成 員	股野元貞	内閣官房国家安全保障局内閣審議官
	西山英将	内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）
	木村公彦	内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター総括副センター長
	米山栄一	内閣府大臣官房審議官（経済安全保障担当） ※代理出席
	小八木大成	内閣府大臣官房審議官（男女共同参画局担当） ※代理出席
	守山宏道	内閣府知的財産戦略推進事務局次長 ※代理出席
	徳増伸二	内閣府科学技術・イノベーション推進事務局審議官
	佐久間正哉	公正取引委員会事務局官房デジタル・国際総括審議官
	筒井洋樹	警察庁警備局長
	逢阪貴士	警察庁サイバー警察局長
	飯濱誠	警察庁長官官房技術総括審議官
	佐脇紀代志	個人情報保護委員会事務局長
	柳瀬護	金融庁総合政策局審議官
	尾原知明	消費者庁審議官 ※代理出席
	水田功	こども家庭庁長官官房審議官（総合政策等担当）
	楠正憲	デジタル庁デジタル社会共通機能グループ統括官
	布施田英生	デジタル庁省庁業務サービスグループ統括官
	下仲宏卓	総務省大臣官房審議官（情報流通行政局担当） ※代理出席
	竹村晃一	総務省国際戦略局長
	中村功一	法務省大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官
	斉田幸雄	外務省総合外交政策局参事官 ※代理出席
	片平聡	外務省経済局長
	坂本修一	文部科学省大臣官房サイバーセキュリティ・政策立案総括審議官
	長谷川学	厚生労働省医政局研究開発政策課長 ※代理出席
	堺田輝也	農林水産省大臣官房技術総括審議官
	伊藤優志	農林水産省大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官
	野原諭	経済産業省商務情報政策局長
	中村晃之	国土交通省大臣官房技術総括審議官
	山下雄史	国土交通省大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官
	熊谷 和哉	環境省大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官
	家護谷昌徳	防衛省大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官
	松本恭典	防衛装備庁技術戦略部長

4.議題

(1) 当面のA I 政策について

(2) 各省庁からの報告事項

- ・行政の進化と革新のためのAI政府調達・利活用ガイドライン（案）[デジタル庁]
- ・AIディスカッションペーパー（第1.0版）の公表[金融庁]
- ・GENIAC-PRIZE（生成AI特化の懸賞金事業）[経済産業省]

5.公開資料

資料1 行政の進化と革新のためのAI政府調達・利活用ガイドライン（案）について

資料2 AIディスカッションペーパー（第1.0版）の公表について

資料3 GENIAC-PRIZE（NEDO懸賞金活用型プログラム）の概要

参考資料 AI戦略推進関係省庁会議の開催について

6.議事要旨

冒頭、城内議長から、開会挨拶として、先月26日に石破総理が東京大学で生成AIの講義を受けた際、総理からAI法案の速やかな成立、AIを活用した地方創生の推進、AI活用を進めるための規制や慣習の見直し、フィジカルAIの取り組みの加速などについて言及があったことなどについて、ご発言があった。

続いて、平顧問から、今後様々な社会課題に対して、どのようにAIを実装していくかが課題であり、デジタル庁が中心となって安全性を確認しながら、各省庁への水平展開を図り、政府が率先してA Iを実践することにより、日本全体でのA Iの実装の加速に繋がっていききたいことなどについて、ご発言があった。

その後、以下について事務局、構成員からの説明及び意見交換・質疑が行われた。

(1) 当面のA I 政策について

内閣府より、A I 法案の審議状況等について報告があった。

(2) 各省庁からの報告事項

資料1に基づき、デジタル庁より、各府省庁における生成A I の調達・利活用のルールや、そのガバナンス体制等について説明があった。また、同庁から各府省庁に対し、AI統括責任者（CAIO）の任命、AIの利用状況の把握等への協力を依頼した。

資料2に基づき、金融庁より、金融機関等におけるAIのユースケース、課題等についてとりまとめた「AIディスカッションペーパー」の公表について報告があった。特に、生成AIは文書の要約等の業務効率化への活用が大半を占めており、対顧客サービスへの活用は限定的であることについて言及があった。

資料3にもとづき、経済産業省より、生成AIの社会実装の推進のための懸賞金活用型プログラムについて説明があり、同省から各府省庁に対し、関係者への周知を依頼した。

<意見交換・質疑>

総務省では、デジタル技術を用いた地域課題の解決を推進しており、現在、情報通信審議会において地域におけるAIの実装に向けた具体的政策を検討していること等について発言があった。

最後に、城内議長から、締め括りの挨拶として、AI法案について衆議院の審議では、人間中心の考え方や自治体等におけるAIの活用策、リスク対応としてのディープフェイクポルノ等の扱いについて話題となったこと、また、AIは技術変化が速く想定外の事態も起こり得るため、既存の法令やガイドラインの運用、実態把握等を、引き続き緊密な連携の下で進めるよう関係省庁へ依頼した。さらに、「統合イノベーション戦略」において、AIに関する施策をしっかりと盛り込み、「世界で最もAIを開発・活用しやすい国」を目指して取り組む旨を述べ、閉会した。

以上